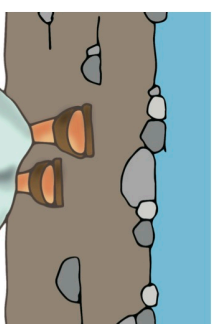


ることはありません。」

むかし、エリヤというひとがいました。エリヤは、神さまのことはばをアハブ王にいいました。「これからずっと雨がふ



した。

エリヤは、すぐ

に川へむかいま

たしがあなたを

やさなおう。」

なさい。そこでわ

テ川のそばに行き

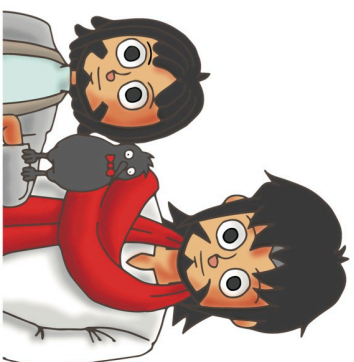
神さまはエリヤにいいました。「ケリ



エリヤとカラス

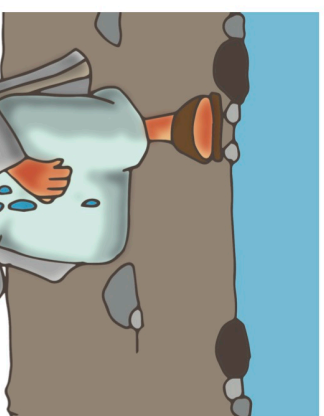
-1-

# エリヤものがたり



私のたすけは、  
てんちをつくられたまからくる。  
しん 121:2

エリヤは、神さまのことはばを信じて  
したがいきました。神さまは、ふしぎ  
なほうほうで、いつも私たちをまも  
ってくださいます。



と、信じま

まもつてく

「神さまが

しました。川の水をのみながら、

川のそばで、エリヤはひとりであ



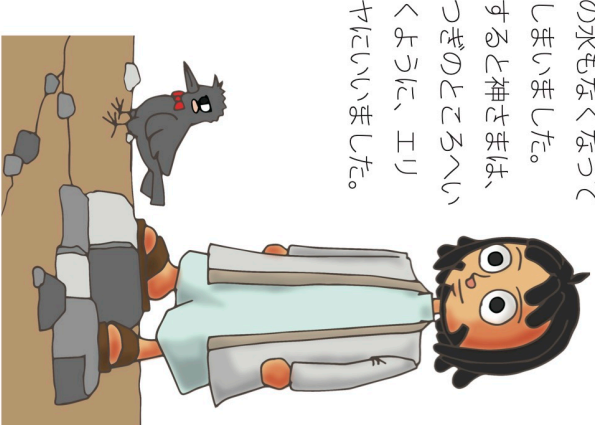
とよこびました。

たしをまもつてくださっている！」

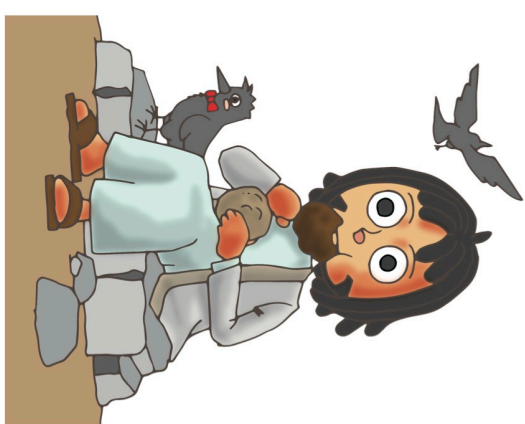
ています。エリヤは「神さまが、わ

した。くちばしにパンと肉をくわえ

すると、空からカラスがやってきま



川にアサア 長いあいだ雨がふらず、とうとう川  
の水もなくなつて  
しまいました。  
すると神さまは、  
つぎのところへい  
くように、エリ  
ヤにいいました。



カラスは、あさもよるも、エリヤに  
まいにち食べるものをばこびました。  
エリヤは、あんしんしてくらしました。